

育 Me 科 学習指導案「相手に伝わる話し方」

○ねらい

自分の考えや願いが伝わるように話の組み立てを工夫して、適切な言葉遣いで話すスキルを身に付ける。

	活動内容	進め方・支援	育 Me 科の視点
事前	・週末にしたことを話せるように事前に児童伝えておく。	・生活ノートなどに書かせて記録を残させる。	
導入	1 あいさつ ・前回の学習内容「敬語で話しましょう」の内容を確認する。 2 学習内容の理解 ・教師によるモデリング 〈1回目〉週末にしたことを小さな声、下を見て、無表情に話す。 〈2回目〉週末にしたことを伝わる声量で相手を見て表情よく話す。 ・「相手に伝わる話し方」のポイントを確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 【相手に伝わる話し方】 ①声:相手に届く大きさと ②視線:相手の目を見て ③表情:身振り・手振りを入れて表情豊かに </div> 3 本時のめあての掲示 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 自分の考えや思いが相手に伝わるように話そう。 </div>	・ペアで確認をする。 ・教師の話し方から、相手に伝えるためにどんなことを改善するとよいか考えさせる。	・「おかめあいさつ」を用いる。
展開	4 グループ活動 ・1グループ3～4人で、順番に話す。一人話すごとに聴き手は「相手に伝わる話し方」のポイントに沿って評価する。 ・グループ全員が話し終わったら、グループのメンバーを入れ替える。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 【聴き手の評価の伝え方】 ・もう少し大きな声で話してくれたら聴きやすかったよ。 ・もう少し私たちのことを見ながら話してくれると嬉しいな。 ・楽しい話だったから、ニコニコしながら話せるとわかりやすいよ。 </div> 5 全体活動 ・話す内容(原稿)を提示し、全体の場で数人の児童が一人ずつ順番に話す。 ・原稿を楽しい話と悲しい話の2つ用意する。	・評価シートを配布し、話し手の評価を記録させる。 ・教師もグループ活動に参加し、話し方について評価をしたり、聴き手の評価について支援したりする。 ・原稿を読む際も、「相手に伝わる話し方」を意識させながら話せるよう指導する。	・活動を始める前に、評価を伝える際に厳しい言葉遣い、相手が嫌な気持ちになる伝え方をしないよう指導する。 ・聴き手も話し手のことを見て聴けるよう伝える。
まとめ	6 ふりかえり ・自分が生活している姿を振り返り、「相手に伝わる話し方」ができているか考えさせる。 ・振り返りをプリントに記入させる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 【出口での児童の姿】 「私の話し方は、自信がないと声が小さくなったり、目線が下を向いたりするので、気をつけて話したいです。」 </div>	・授業での姿と日常の姿を比較させることで、授業後どんなことを意識するか具体的にさせる。	

【原稿①:楽しい話】

私は週末に家族と遊園地に行きました。ジェットコースターにのって、すごくスリルがあって楽しかったです。お昼ごはん食べたハンバーガーも、とてもおいしかったです。そのあと、家族みんなで観覧車にのって、高いところから眺めた景色がきれいでした。天気もよくて、すてきな一日になりました。また行きたいです。

【原稿②:悲しい話】

終末に楽しみにしていたサッカーの試合が、雨で中止になってしまいました。チームの仲間とたくさん練習していたので、がっかりしました。その日は一日中雨が降っていて、外でも遊べませんでした。しかたないので、家で本を読んで過ごしましたが、さびしい気持ちになりました。来週もサッカーの試合があるので、晴れてほしいです。